

# 平成 26 年 4 月 13 日 主日礼拝

礼拝開始: 午前 11 時

聖餐式

司 会 : 小木秀夫兄  
奏 楽 : 小島明美姉  
おいのり : 持田樹理姉  
さんび : 新聖歌 236 「あだに世をば過ごし」 1. 2. 4 節  
十 戒  
聖 書 : ヨハネによる福音書 19 章 28 ~ 30 節 (P.175)  
(朗読: 加藤由美子姉)  
音 楽 : 倉知 契牧師  
メッセージ : 「すべての終わり」とすべての始まり」 倉知 契牧師  
さんび と 献金 : 新聖歌 112 「カルバリ山の十字架」  
聖 餐 式  
頌 栄 : ハレルヤ(B♭)  
祝 禱  
報 告

## 【瀬戸ニュース】

- ◇ 皆様を心から歓迎します。お昼も一緒にどうぞ。
- ◇ 礼拝直後、牧師は東京リニューアルへ。お祈りください。
- ◇ 来週は、復活祭イースターのオープン礼拝。チラシあり。  
「花は咲く」～ふるさと～ゴスペルと喜びを歌いましょう。  
多くの方をお誘いください！(愛餐会にもご協力を)
- ◇ 教会出席者の名簿を整理中、お手数お掛けします。
- ◇ 祈禱会 木曜10時半/土曜掃除10時半/祈禱会11時15分
- ◇ 祝大 Aコース ルカ10章～13章  
Bコース 士師記18章～サムエル記上12章

◇次聖日礼拝奉仕者 [平成26年4月20日] [愛餐会][イースター礼拝]  
[司会: 片岡洋一兄、いのり: 下岡晶子姉、聖書朗読: 赤塚孝子姉]  
[ピアノ&リード: 米田 香姉、 アシスト: 加藤由美子姉、鄭恵真姉]  
[献金: 持田樹理姉、受付: 太田昌子姉]

- ◇PA: 平松章治兄
- ◇週報編集: 片岡洋一兄
- ◇ホームページ編集: 大神真伸兄
- ◇日曜学校: 片岡立子姉



「苦しみ」を通してでなければある世界は開かれない。  
仮に苦しむことを経験しなかったとしても「苦しんでいる人」にふれることなくでは、ある世界は開かれない。しかし、その両方がなくても、あなたのために「苦しまれた方」を知ることなしに、霊的な世界は決して開かれないであろう。

苦しみの意義を探るすべての人の指針となるこの言葉は、スイスの精神科医、また牧師であったポール・トゥルニエ氏のもの。ちょうど今週は受難週と言って、イエス様が十字架にお架かりくださったことを忍ぶ一週間です。次週は喜びのイースター(復活祭)ですが、「No cross no crown」十字架なしに冠なしですから、私たちは受難日である金曜日(Good Friday)はもちろん、いつもより少し時間をかけて主のみ前に心を静め、「苦しまれた方」を想うときを持とうではありませんか。4つの福音書の後半はいずれも十字架の物語が書かれています。どれかひとつでも精読なさることをお奨めいたします。

先のポール・トゥルニエ氏のことばにこうあります。「本当に人を理解するためには、私たちは答えることではなく、その人の言葉に耳を傾ける必要があります。長くそして注意深く傾聴する必要があります。」精神科医として長年耳を傾けてこられたのでしょうか。症状をすぐに判断して処方箋を出すこともできたかもしれませんが、「傾聴」こそ人の理解であり、癒しであることを語りました。

先週あるビジネスマンが私に手紙をくださいました。「うつ病の妻には申し訳なくて話せませんが、大きな責任ある仕事の重圧に押し潰されそうになります。その度に主の助けを必死で求めます。でも恐れや不安で心が疲れたとき、契先生のメッセージが僕を奮い立たせてくれます。本当に有難うございます。」…こんな小さな者を通して主がお語りくださっていることに驚き、襟を正されました。お互い、人に言えない、様々な苦しみを抱えながら人生を歩んでいます。十字架を忍ばれたイエス様こそ、最良の理解者。どんな人にも「三日目が来る」と信じて毎日を過ごしましょう。来週は復活祭オープン礼拝・お誘い合わせてどうぞ！

「イエスは、「完了した。」と言われた。そして、頭を垂れて、霊をお渡しになった。」  
He said, "It is finished!"  
ヨハネ十九の三十(新改訳)

瀬戸カルバリーチャペル 倉知 契